



縦割りの体カテスト

帝京大学小学校 校長 石井卓之

5月12日(火)に体カテストを行いました。全校児童が縦割りの班を基に4人程度のグループをつくり、高学年がリーダーとなって色々な種目の場所へ回り、計測をしました。計測場所の混雑状況はリーダーが持っているタブレットに表示されます。リーダーはそれを見ながら、時間短縮ができるルートを考えて班を誘導します。このシステムを作る前は、学級ごとに決められたルートで測定場所を回りましたが、当時は朝から4時間目までかかっていました。

今回1番早かった班は、2時間目の途中で全ての計測を終えていました。校舎内から校庭に移動する際には、リ



ーダーが「靴を履き替えて、朝礼台の前に集合」など、班がバラバラにならないように声かけをしていました。計測場所では、班で測定の補助をし合ったり、記録を書いたりするなど、協力しながら進めていました。6年生が先にやり方を示すことで、1年生が学ぶこともできていました。

1・2生のキッズニア遠足、3・4年生の八ヶ岳のセカンドなど、縦割りや異学年交流での関わり合いを生かした活動が行われていきます。今後も同年齢の学年集団だけでなく、異年齢集団の活動を通して関わりを広げながら、上学年のリーダー性を高めていきます。

昨年度の3月18日(水)に現6年生、現4年生が、東京都教育委員会が募集していたマイクラフトを使って廃校を作り変えるプログラミングの企画に挑戦しました。当日は、4年生が午前、6年生が午後、それぞれ2時間を使って基本的な内容を学んだ後に、協力しながらチャレンジしました。既に、家庭でマイクラを行っている子もいて、楽しそうに活動していました。

授業後、企画を担当した企業の方と話をしている中で、教育用マイクラフトを使った全国大会が年々拡大しながら実施されていることを初めて知りました。小学生でも取り組める内容であること、一人での参加も可能であり、もちろん声をかけ合ってチームをつくっての参加でもよいということも分かりました。作品の締め切りが9月7日(月)なので、夏休みの自由研究として取り組んでいる子もいるとのことでした。

ただ、教育用のマイクラのダウンロード・ライセンス料(1年間)、6,000円が必要なので、学校を挙げての取り組みは無理だと判断しました。

今回は、紹介のためにチラシを配布しました。ご家庭でお子様の興味があるようでしたら、ご検討ください。



復帰した先生の紹介

全校の人が利用できる保健室は、心身の不調での来室が大半ですが、ちょっと休憩したり、身長を測ってみたり、愚痴を言ってみたりなど、1日を通して様々な理由での来室があります。保健室ならではの雰囲気を大切にしつつ、私自身も来室者との交流や出会いを毎日楽しんでます。そんな毎日からか、特技は「全校の人の顔と名前を覚えること」です。4月末より育児休業から復帰いたしましたので、1年生の顔と名前を早く覚えていきたいです。これからまた、よろしくお願いたします。



《教諭 松田亜弓》